

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：アリスティア・マッケンナ牧師
詩編 119 篇 49-72 節 (詩編 119 篇シリーズ パート 3)
2021/11/21

はじめに

大阪インターナショナルチャーチの皆さん、おはようございます。私はアリスティア・マッケンナと申します。しばらく来ている方はもう私をご存知かと思いますが、私は以前 OIC の牧師として 5 年間お仕えて素晴らしい時を過ごしました。今でも皆さんのことを大切に思い、祈っています。今日こうして神の御言葉をお分かちできる特権を感謝いたします。

私がなぜポピーを上着に付けているのかと疑問に思った方もいらっしゃるかと思います。

今日は 11 月 11 日ですが、英国及び英連邦の国々では、11 月 11 日の 11 時から 2 分間起立して、世界大戦やその後の戦争で亡くなった方を覚える沈黙の時を持っています。今日私は海岸沿いにあるシドマウスのホテルで約束があり、2 分間の沈黙の時を他の方と持つので、その時に敬意を示すためにこのポピーを付けています。このポピーは購入できるのですが、その売り上げは戦争のために貧困に陥ったり、未亡人になったりしてサポートを必要としている人たちの経済的支援のために用いられています。

詩編 119 篇からお話しするのは今日が 3 回目で、詩編についての説教はこれが 2021 年最後となります。来月も説教をしますが、12 月 19 日はクリスマス礼拝のメッセージです。来週からその準備をするのを楽しみにしています。詩編 119 篇を来年きちんと終わるのが良いとは思いますが、どうするかは役員にお任せします。

この詩編を通して、私自身も課題を与えられ、祝福を受けました。説教者が説教を通して学ぶことはないと思う方もいるかもしれませんが、私個人も学び祝福されました。

皆さんもご存知のように、詩編 119 篇がきっかけで女王に自分の本を送り、ボリス・ジョンソン首相にも証しました。

先日、女王から手紙を受け取りました。その手紙は、女王の女官が書き留めたものです。女王の個人的な友人等でない限り秘書官が女王の書状などを管理されています。

これは女王が住むウェンザー城からの手紙です。ほとんどの手紙はロンドンのバッキンガム宮殿に届きますが、それからウィンザー城へ届けられます。

私が本を送った時、ちょうど女王は疲労のため医者から自宅静養するように言われており、今はクリスマスの準備のために冬季用の住居に滞在されています。このような状況でも時間を取って秘書官に手紙を書き留めさせてくれたことに感激しています。その手紙を読んでみましょう。

「女王のたつての願いから、女王陛下宛に賜った手紙と

『信仰物語～わたしの証～』の本のお礼を申し上げるべくお便りいたしました。

女王は、あなたの本を届けたいという思いに感激され、またあなたがお祈りくださっていることに非常に感謝されています。

改めまして、時間を取り手紙をお書きくださったお心遣いに感謝いたします。敬具」

詩編 119 篇から神が示してくださったという個人的な確信がきっかけで私は手紙を書いたのですが、返事もらったことは大変励ましでした。ですから皆さんも、聖書で神が皆さんにして欲しいと示されたことがあればそれに従ってみてください。きっとたましいの大きな祝福となることでしょう。首相のボリス・ジョンソンにも証しましたが、返事はまだもらっていません。

彼は忙しい人で、祈りの助けが必要な人です。今は支持率も下がっていますね。

さて今日はまずは 119 篇 49-72 節からゆっくり読んでいきます。

119:49 どうか、あなたのしもべへのみことばを思い出してください。あなたは私がそれを待ち望むようになさいました。119:50 これこそ悩みのときの私の慰め。まことに、みことばは私を生かします。119:51 高ぶる者どもは、ひどく私をあざけりました。しかし私は、あなたのみおしえからそれませんでした。119:52 【主】よ。私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し、慰めを得ました。119:53 あなたのみおしえを捨てる悪者どものために、激しい怒りが私を捕らえます。119:54 あなた

のおきては、私の旅の家では、私の歌となりました。119:55 【主】よ。私は、夜には、あなたの御名を思い出し、また、あなたのみおしえを守っています。119:56 これこそ、私のものです。私があるあなたの戒めを守っているからです。119:57 【主】は私の受ける分です。私は、あなたのことばを守ると申しました。119:58 私は心を尽くして、あなたに請い求めます。どうか、みことばのとおり、私をあわれんでください。119:59 私は、自分の道を顧みて、あなたのさとしのほうへ私の足を向けました。119:60 私は急いで、ためらわずに、あなたの仰せを守りました。119:61 悪者の綱が私に巻き付きましたが、私は、あなたのみおしえを忘れませんでした。119:62 真夜中に、私は起きて、あなたの正しいさばきについて感謝します。119:63 私は、あなたを恐れるすべての者と、あなたの戒めを守る者とのともがらです。119:64 【主】よ。地はあなたの恵みに満ちています。あなたのおきてを私に教えてください。119:65 【主】よ。あなたは、みことばのとおり、あなたの上にもよくしてくださいました。119:66 よい分別と知識を私に教えてください。私はあなたの仰せを信じていますから。119:67 苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。119:68 あなたはいつくしみ深くあられ、いつくしみを施されます。どうか、あなたのおきてを私に教えてください。119:69 高ぶる者どもは、私を偽りで塗り固めましたが、私は心を尽くして、あなたの戒めを守ります。119:70 彼らの心は脂肪のように鈍感です。しかし、私は、あなたのみおしえを喜んでいます。119:71 苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれでああなたのおきてを学びました。119:72 あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。

今日の聖句は、詩編 119 篇 49-72 節です。くり返しになりますが、この箇所にある 3 つの見出しはすべてヘブライ語のアルファベットです。

最初の部分は記憶が鍵となる部分で、Zayin (ザイン) というヘブライ文字始まります。

1. Zayin (ザイン) :記憶の働き (49-56 節)

この詩編を書いた人がレビ人の祭司だったとしたら、彼は申命記について精通している必要がありました。申命記という言葉には、第二の立法という意味があります。もう一つ立法があったのではなく、同じ立法の反復です。

申命記 32 章には、モーセによる別れの言葉が記録されています。神が民に約束された地、カナン征服のためにイスラエルの新しい世代を整えるべくこの言葉が語られました。荒野を 40 年間さまよった後、イスラエルの民は新しい地に落ち着こうとしていました。けれども、人は過去に学んだことを忘れてしまいがちだとモーセは分かっていました。

民が神の立法を忘れてしまうのではないかということもモーセにとっては気がかりでした。また神の約束や、神の立法に不従順であることに対する罰があるという神の警告を彼らが忘れてしまうかもしれません。

モーセは神の民を思いやっていたから、神の選ばれた民が過去に学んだことや神の立法に書かれた教えを忘れないようにと望んでいました。

有名な哲学者、ジョージ・サンタヤーナはこう言いました。

「過去を覚えぬ者はそれを繰り返す運命にある」

言い換えれば、過去の失敗から学ばないならば、将来またそれを繰り返してしまう可能性があるということです。私もそういったケースを見たことがあります。

これが詩編 119 篇 49-56 節を見るにあたって心に留めておくことです。

49-51 節のテーマは、「神は民を覚えておられる」です。

「覚える」と言う言葉が聖書で神に用いられる時には、ある違った意味を持ちます。

それは「注意を払う」もしくは「代わりに働く」という意味です。

神が全知であることを覚えておくことが重要です。神は全てご存知で、なにも忘れられることはないということです。

けれども神は、私たちに関することを「思い出さない」ことも選択できます。

イザヤ 43:25 で神はこのように言われました。

「43:25 わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」
(「神は思い出さないことを選択される」ことについてのその他の箇所：エレミヤ 31:34、ヘブル 8:12、ヘブル 10:17、他)

神の赦しは過去の罪を思い出さないことを選択するものである一方、神は私たちに良いことを行い祝福してくださることを覚えておられます。

創世記 8 章 1 節には神がノアを思い起こされ、雨がやみ、最終的に箱舟が山の頂でとどまり、ノアとその家族、動物たちが皆救われた、とあります。

創世記 19:29 には、神がアブラハムを覚えておられた、とあります。

そしてそれゆえに、神はアブラハムの末の弟であるロトをソドムの破滅から救い出されました。創世記 30:22 には、神がラケルを覚えておられた、とあり、神は子どもが欲しかった彼女の胎を開かれ、彼女は子を産み、その子はヨセフと呼ばれました。

これら全ての状況で、「神が覚えておられる」ということは、神の子どもの益のために神が何かしてくださることを含んでいました。私達も神の子どもです。

イエスを知り、自分の救い主として愛しているならば、神はあなたのことを決して忘れず、あなたの益のために働くことを覚えていてくださいます。

49-51 節で著者は、過去に与えられた言葉が苦しみの中でも励ましてくれたことを覚えて神に祈っていました。

著者は、神が働かれ、ご自身の約束を満たされるのを待っていました。

神の御言葉に背を向けるよう仕向ける敵がいたにも関わらず、彼に希望を与えたのは神の御言葉でした。敵は著者が神の約束を疑うように仕向けました。

これが悪魔の用いる方法の一つです。創世記 3 章で悪魔がエバの思いに疑いの種を植えたところでは、悪魔の戦術の土台たるものを見ることができます。

悪魔は「神は本当に言われたのか」と言って疑いを抱かせました。

バビロンで捕虜となったダニエルは、神が捕囚から民を解放されると言う約束をエレミヤの預言に見出すと、その神の約束が満たされるようにとすぐに神に祈りはじめました。その部分はダニエル書 9 章にあります。

真の信仰は神の約束を信じるだけではなく、神がその約束を実行すべく働かれるよう祈るものです。

Q.この真理が今の私たちにどのように適用されるでしょうか？

もしも私たちが真のイエスの信者であれば、毎日聖書を読みます。すると神は詩編の著者に語りかけられたのと同じ方法で私たちの個人的な状況に語りかけてくださいます。

聖書を読む時、聖霊が私たちそれぞれのための約束を心に告げてくださるかもしれません。その状況を覚えてしっかりと祈らなければなりません。

もしもそれが将来のことについてであれば、神にその約束を思い出していただくのです。

個人的な証をお分かちしましょう。17 年前、2004 年に、私は非常に大きな困難を経験しました。私は燃え尽き症候群になり、体が通常通り機能できないでいたのです。

とてもひどい体験でした。人生で最もひどい体験の一つです。

その体験の最初の頃に、私は詩編 71 篇を読みました。

すると神が 20 節で私に直接語りかけてくださっていると感じたのです。

私の NKJV 訳 (新ジェイムズ王訳) の聖書にはこうあります。

「71:20 あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、合わせなさいましたが、私を再び生き返らせ……」

私は、この節を私個人のための神の約束ととらえました。私はこの燃え尽き症候群から回復し将来いつか生き返らせられるのだと。

その1年というもの、神ご自身が約束されたことを幾度となく神に確認しました。
結果的に、神はご自身が私に約束されたことを尊重され、私は生き返ったのです。

3ヶ月で仕事には復帰しましたが、完全に回復するのには1年かかりました。

回復してから、シドマウスの私の家の近くにあるバプテスト教会の牧師として11年もの忙しい年月を過ごしました。そして日本でOICの牧師として5年間お仕えしたのです。今でも働きすぎないように気を付けなければなりません、それ以降問題は起こっていません。神の恵みにより、神が私を送られる場所ならどこでも私は説教をし、御言葉を教えることができる状態です。

神が私たち個々に与えられる約束が何であれ、神が約束を尊重されることに信頼できます。今の私たちはどうでしょう？神が個人的な約束を満たしてくださるのを待っていますか？

神はいつでもご自分の約束を尊重される方ですから、奮い立ちましょう。

新約聖書には、全てのクリスチャン信徒のための普遍的な約束もあります。

その約束について知り、受け入れ、私たちのための約束であると信じるべきです。

困難な状況を通る時、神に約束を祈り返さなければいけない時もあります。

ヘブル13:5-6にはこうあります。

「13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましょう。」

この約束はすべてのクリスチャンのためにあります。OICの皆さんのためにも、英国にいる私やウェンディのためにも、です。

けれども聖書にある神の約束を読む時、文脈のうちにその節を見て、完全に意味を理解しなければなりません。

例としてピリピ4:19を見てみましょう。

「4:19 また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」

この約束は、与えることに犠牲を払っていた教会に宛てて書かれたことが背景にあります。ですから私たちが個々にこの約束を適応するには、どこであろうと私たちも礼拝する教会における十一献金や寄付において犠牲を払うことができていることが前提となります。

聖書の中の約束が書かれた文脈や前後関係を理解することなく、その部分だけを摘み取って自分に適用することはできません。

それが、私が説教する時に一つの書をまるごと教えるのが好きな理由です。そうすればその書の最初から終わりまで通して前後関係を理解できるからです。

詩編119篇の文脈はすべて神の御言葉に基づいていて、御言葉を覚えることなどが含まれています。

私たち全てのための聖書の普遍的な約束を見出すにあたり、神が私たちに祝福してくださいますように。神の子に対する神の約束を見出すことはとても楽しく励ましになるものです。

では、52-54節に移ります。神の民が神の御言葉を覚える部分です。

著者は52節で「私は、あなたのとこしえからの定めを思い出し...」と言っています。

ここで疑問となるのは、500年も前に起こったことを著者がどうやって思い出すことができるのかということです。

答えは聖書の中にあります。

申命記31:24-29を開けてみましょう。

「31:24 モーセが、このみおしえのことばを書物に書き終えたとき、31:25 モーセは、【主】の契約の箱を運ぶレビ人に命じて言った。31:26 「このみおしえの書を取り、あなたがたの神、【主】の契約の箱のそばに置きなさい。その所で、あなたに対するあかしとしなさい。」

31:27 私は、あなたの逆らいと、あなたがうなじのこわい者であることを知っている。私が、なおあなたがたの間に生きている今ですら、あなたがたは【主】に逆らってきた。まして、私の死後はどんなであろうか。31:28 あなたがたの部族の長老たちと、つかさたちとをみな、私のもとに集めなさい。私はこれらのことばを彼らに聞こえるように語りたい。私は天と地を、彼らに対する証人に立てよう。31:29 私の死後、あなたがたがきっと墮落して、私が命じた道から離れること、また、後の日に、わざわいがあなたがたに降りかかることを私が知っているからだ。これは、あなたがたが、【主】の目の前に悪を行い、あなたがたの手のわざによって、主を怒らせるからである。」」
神の御言葉がただ記録されただけではなく、歴代に渡って伝えられたのです。

申命記 6:4-9

「6:4 聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。
6:5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。
6:6 私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。6:8 これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。6:9 これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。」
次世代に御言葉を伝えることがいかに重要か分かりますね。

私たちもまた、神の民の教会として、次の世代に聖書全体から神のことを教えるように命じられています。聖書は新約聖書だけではありません。多くのクリスチャンが新約聖書しか読んでいませんが、旧約聖書も神のことを教えてくれます。
テモテ第二 2:1-2 「2:1 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。2:2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」
イエスの弟子となったら自分が学んだことを次の世代に伝えるのが弟子訓練の親としてのポイントでもあります。

教会で神の御言葉が敬われ、教えられ、従われない限り、その教会は次の世代で途絶えてしまうでしょう。

人々が神の御言葉の真理によって養われなければ、教会は死んでしまいます。私たち皆が御言葉を次の世代に伝える責任を担っています。

53 節で著者は御言葉を拒否する人たちに対して怒り苦しんでいました。

けれども彼は怒りに駆られて自分をだめにしたり、悪いことをしてしまったりはしませんでした。彼は怒りに神の愛を加え、そのことで建設的な行動が生まれました。

その行動とは神の立法を歌に変えて、そしてそれを用いて主を賛美することでした。

エペソ 5:16-20 「5:16 機会を十分に生かして用いなさい。悪い時代だからです。5:17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい。5:18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。5:19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。5:20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

けれども私たちの賛美は聖書の真理に基づいていなければなりません。

もしも私たちの賛美が聖書の真理に基づいていなければ、その賛美は神に受け入れられません。これはとても重要です。OICには素晴らしい音楽のチームがありますが、歌は聖書の真理に基づいていなければなりません。

私たちが何を歌うかが重要で、時には聖書から御言葉を、特に詩編から歌うに越したことはありません。

1949年は、英国に直近で真のリバイバルがあった年でした。真のリバイバルでは、神ご自身が非常に力強い方法でコミュニティを訪れます。聖霊の働きにより、神はたましいを救われるのです。リバイバルで人々は泣き崩れ、悔い改め、全てを正すためにどのようなことでもします。北アイルランドで何年も前にリバイバルが起こった時には、盗まれたものが返却されて2つの倉庫がいっぱいになりました。

私が一番よく知っているリバイバルは、スコットランド北西部にある小さな島、ルイス島で起こったものです。（一度はそこへ行ってみたいと思っているのですが。）

そのリバイバルでクリスチャンになったメアリー・モリソンという若い女性がいました。彼女は若き奉仕者としてフェイス・ミッションと言う団体で働き、そして南アフリカ出身の若者と結婚しました。その若者は最終的にフェイス・ミッション・バイブル・カレッジの学長となりました。コリン・ペックハム師です。彼は今、主と共におられますが、私の弟子訓練の親でした。私は、結婚後メアリー・ペックハムという名になったその女性からルイス島でのリバイバルについて多くの話を聞きました。

その中でもいつも思い出すのは、リバイバルの中でも、人々が詩編を歌う時に神が最も近づいてくださったという彼女の証です。力強い神のご臨在で人々は泣き崩れます。これはモーセが神と経験したことに似ています。

これは私たちが御言葉を歌い返すのを神が喜ばれるという確かな証拠であり、詩編から歌えなくても、聖書の真理を神に歌えばよいのです。

今からとても重要なことを言います.....

神に御言葉を歌い返すならば、神は喜ばれ、私たちをそのご臨在で祝福されます。

OICの賛美がどうして素晴らしいのかと皆さんが思う時は、神の御言葉が歌われて神が喜んでおられるということです。

詩編 16:11 は、私たちが神の臨在にある時、喜びに満たされると教えています。

ですからこの世でできる最高の経験は、神のご臨在の内にいることです。

（皆さんの励ましに一言メモです：私と妻のウェンディはいつもデイリーブレッドのデボーションを使うのですが、10月29日の聖句は、神が私たちのために歌われることを思い出させました。ゼパニア書 3:17 を読むと、こうあります。

「3:17 あなたの神、【主】は、あなたのただ中におられる。救いの勇士だ。主は喜びをもってあなたのことを楽しみ、その愛によって安らぎを与える。主は高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。」

素晴らしいですね。神の子であれば、神が歌ってくださるのです。

私は神が私に歌われるのを聞いたことはありませんが、フェイス・ミッションの祈り会で、御使いの歌と思われる歌が聞こえたのを知っています。きっと神が指揮される歌だったことでしょう。では 55-56 節に移りましょう。

神の民は神の御名を覚える (55-56 節)

神の名前、エホバ、ヤハウエは、意味と力に満ちた名です。

旧約聖書の古代ユダヤの人々は、神の御名を大変あがめたため、それを使うことを拒み、本当の名前の代わりに「アドナイ」という言葉を用いました。

この名で代用したのは、神の本当の名を用いることで神に対して罪を犯すことを恐れたためでした。詩編だけでも、100 回以上、主の名前が出てきます。

私たちは神の御名を愛する者である（詩編 5:11）

私たちは神の御名をほめ歌う者である（詩編 7:17、9:2、18:49）

私たちは神の御名によって敵に勝利する（詩編 44:5、54:1、118:10-12）

私たちは神の御名を呼び助けを求めるべきである（詩編 116:4、13）

神の御名を覚えることは、神に信頼し従うよう私たちの心を鼓舞することであって、恐れることではないと聖書は教えています。

詩編 9:10 「9:10 御名を知る者はあなたに拠り頼みます。【主】よ。あなたはあなたを尋ね求める者をお見捨てになりませんでした。」

神の御名を覚えることは、神に私たちを覚え、私たちの代わりに働いてくださるように願うことです。いつでもそうすることができます。特に暗やみを歩む時、恐れる時です（55節）。また孤独で元気を失ったときにも神の御名を覚えるのが良いでしょう（詩編 42:6）。

箴言 18:10 「18:10 【主】の名は堅固なやぐら。正しい者はその中に走って行って安全である。」

今は時間が足りませんが、旧約聖書で神の名前を勉強すると、神の御名がいかに力強いものかが分かるでしょう。そしてヨハネの福音書の「私は～である」というイエスの宣言を読んでそれに心を注ぐなら、更に神の御名について見出すことができます。

ここを終える前に、覚えておいて欲しいことがあります。

神の御名を褒めたたえるために困難な時を待つ必要はありません。毎日神を褒めたたえられるのです。

OIC で私が数年前に始めた弟子訓練コースは、ヘブライ語の神の御名を用いて神に祈り、賛美し、神に感謝することを勧めています。

皆さんにも祈って欲しいのですが、私の次の目標は、弟子訓練についての本を書き、OIC の弟子訓練コースについてその本に載せることではないかと思っています。執筆は私の賜物ではないので、神の助けと、本を編集してくれる方が必要になりますから皆さんもお祈りください。もしも本を書くなら、12 のおもだったヘブライ語の神の名前をリストにして、だれでもそれを用いて神に祈れるようにしたいと思います。ほとんどのものは翻訳済みですし OIC の弟子訓練コースを手伝ってくださっている日本の皆さんの証も添えて日本語に翻訳されれば素晴らしいでしょうね。

では、次のヘブライ語のアルファベット **Heth**（ヘット）に移りましょう。

Heth(ヘット)：必要なのはただ神 (57-64 節)

旧約聖書をまるごと読めば、助けを必要とした時に、神の民が何度も偶像やエジプトに助けを求めたことが分かります。この時の彼らの必要を満たすのに、エホバの神が適任であると彼らが心から信じていなかったことは明らかです。

エリヤの時代には、イスラエルはカナン人の天候の神バアルによって干ばつの問題を解決しようとして失敗しましたが、エリヤはエホバの神に祈り、神は祈りの答えとして雨をもたらしました。他に助けを求めようとする誘惑にかられる時、エホバの神を覚えましょう。私たちに必要なのはただ聖書の神だけです。

何百人もの日本人が来たる年のために願い事をしに神社仏閣を訪れる新年がもうすぐやってきます。クリスチャンであっても、神社仏閣に行くようにと圧力を感じる人もいます。

あなたがクリスチャンであれば、聖書の神が 2022 年のあなたの必要のすべてに答えてくださると家族に伝えましょう。周囲に気を遣って参拝に行っているという人は、イエスのために、聖書の神のためにしっかりと自分の意思を示しましょう。神だけが私たちの必要なお方です。

57-58 節は、神が私たちの受ける分であると教えます。

「受ける分」という言葉が重要です。これは、財産や土地に関わる言葉です。

イスラエル部族へのカナンの土地の割り当てのことを指しています。

(詩編 78 篇 55 節、ヨシュア記 13-21 章を参照してください。)

ヨシュア記のこの章を学ぶと、祭司とレビ人は相続分の土地を与えられなかったことが分かります。それは、主が彼らの相続分であり、受ける分だったからです。

(民数記 18:20-24、申命記 10:8-9 に書いてあります。)

新約聖書の時代に生きる私たちには、約束の土地や財産はありませんが、私たちには主・イエス・キリストにおける豊かな霊的相続分が約束されています。

私たちの受ける分はイエス・キリストにあり、主にあって私たちは満ち満ちているのです。イエスだけが私たちの必要とするお方です。コロサイの手紙から少し読んでみましょう。

コロサイ 2:9-10 「2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。」

ペテロ第二にも素晴らしい約束があります。

ペテロ第二 1:2-4 「1:2 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。1:3 というのは、私たちをご自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。1:4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもとらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」

神がすべてのクリスチャンに備えるものは、賜物であり、貸しではありません。

神に返すことを約束するようには求められません (ローマ 11:33-36)。

私たちに課されるのはキリストにある神の相続を受け取り、その内に喜び、神が全ての必要に応じてくださることに信頼することです。

神は私たちの主人であり、管理者である (59-61 節)

イスラエルが相続した地は実は神のものであり (レビ 25:23) 、

神はその土地を世話されました (申命記 11:8-17) 。

神の民が契約条件に従えば、神はその地における彼らの労働を祝福されました。

けれども彼らが偶像のもとへ行くなら、神は彼らを懲らしめられるのです。

神の祝福には愛の服従が条件でした。

今の OIC の私たちにとっても同じです。

私たちの思いは神のもの、私たちの足、時間は神のものです。

ですから私たちは心の中で何を考え、処理するかを考慮しなければなりません。

どこへ行くべきか、何をすべきか、時間をどう費やすのかをしっかりと考えなければなりません。言い換えれば、神の声を聞き、神の声を覚え、遅れることなく神に即座に従わなければならないのです。

神は私たちの大きな喜び (61-64 節)

私たちは、聖書の神や御言葉の教えに強く反する世に生きています。この世に生きることは非常に憂鬱なこともあります。

けれどもここで著者は神が私たちの最高の喜びであると教えています。

著者は夜中に自らを励まし、また神の民と交わりを持つことで励ましを得ています。

悪者たちは著者の信仰を壊そうと試みましたが、神が著者の最高の喜びであったがゆえに試みは失敗しました。

神が私たちの住まいである時、何も恐れるものはありません (詩編 90:1)

では最後のヘブライ語のアルファベットに行きましょう。

Teth(テット) : 神はいつでも良いお方 (65-72 節)

ヘブライ語の「Tob」という言葉がこの 8 節に 6 回出てきます。

この言葉は「良い」「喜ばしい」「益のある」「貴重な」「楽しい」「正しい」等と訳されます。**神は良いお方**ですから、神がなさることは良いことです。

神は御心に応じて行動されます。

神のご性質と神の御言葉は決して変わることはありませんから、**神はいつでも良いお方です**。以前よく歌っていたドン・モーエンの歌(1995)にこのような歌詞があります。

神はいつでも良いお方
わが心に賛美の歌を置かれる
神はいつでも良いお方
真っ暗闇の夜に、神の光は輝く
神は良いお方、神はいつでも良いお方
(Songs of Fellowship No.1244 – Kingsway Publication)

OIC でもこの曲を歌って、神がいつでも良いお方であることを思い起こすようにしてもいいでしょう。

詩編 119 篇のこの段落は、神が良いお方であることについて 3 つの点をもって教えています。まずはこれです。

神は良いことをなさる(65-66 節)

65 節にある「～の通りに」という言い方は、詩編 119 篇で頻繁に使われています。

神の御言葉と、願いもしくは事実を結びつけるということです。

神は、聖書の御言葉の中に表された約束や原理の通りに働かれます。

私たちも、いつも御言葉の通りに祈り、振舞うべきです。

神の御心や御言葉に沿っていないことを願うことは無知のまま自分勝手に振舞うこととなります。 (ヤコブ 4:3)

そのようにしてしまっただけで神が願いに沿ったことをお与えになったとしたら、こんなこと祈らなければよかったと思うことでしょう。イスラエルが食べる肉を神に求めた時がそうでした。

(詩編 106 篇 15 節、民数記 11:31-35 節)

神の御言葉を知っていれば知っているほど、祈って神の御言葉に従うことができます。もしも自分の祈りを改善したければ、まずは聖書を読むことにおいて改善を見出していくべきです。それが助けになることでしょう。二番目は...

神はただ良いことをなされるだけではなく、悪いことをくつがえされ、悪いものから良いものをもたらされる (67-71 節)

著者は神の御言葉に従わず道に迷っていました。

けれども、神は彼を懲らしめられ、著者は今や神の御言葉を守ると公言します。

神はその愛のゆえに、彼を懲らしめるために苦悩をお与えになりました。

(へブル 12:1-11 を後から読んでみてください)

けれども、神の御言葉に従順である時でも、苦悩を経験することがあります。

どうしてでしょうか？

神はこういった時を、私たちに成熟させ、神に近づけるために用いられます。

有名なバプテストの英国人説教者、チャールズ・スボルジョンはこのように言っています。

「神の約束は燃え盛る苦悩の真ただ中で一番の輝きを見せる」

けれども敵から私たちの苦悩が来ることもあります。それでも、そんな時にでも神は苦悩を神のために、そして神の栄光のために方向転換することができます。

私たちは、神がイエスの苦悩を通していかに素晴らしい良いものを私たちにもたらして下さったのかを見るべく、ただイエスだけを見なければなりません。

イエスは多くのことで苦難にあいました。精神的にも身体的にも苦悩されました。全世界の罪のために十字架にかかれたのです。

イエスが十字架上で苦しまれた時、全地が3時間暗くなった時がありました。

その時が、イエスが私たちの罪の罰を実際に受けられた時でした。

マタイ 27:46には、イエスが十字架上で大きな声で「**わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか**」と叫ばれたとあります。

神から離されてしまったこと、これが何よりも残忍な罰でした。

けれども、このイエスの苦悩を通して、私たちの救いが作り出されたのです。

もしも神の敵があなたの苦悩を引き起こしていたとしたら、最終的には神がその状況から良いことをもたらされるでしょう。

ヨセフの兄弟はヨセフを穴に落とし、エジプトに行く道中の商人に奴隷として売ってしまいました。ヨセフは苦しみましたが、神はヨセフと共におられ、最終的にヨセフはユダヤ国民を絶滅の危機から救ったのです。（創世記 50:19-20）

最後の 72 節は、神は素晴らしさを示すためにご自身の御言葉である聖書を用いられると教
えています。神がご自身の真理と宝を比較されるのはこれで二回目です。

「まさるもの」に用いられているヘブライ語は「貴重な」「もっと価値がある」とも訳すことができます。これは、クリスチャン信徒が世の優先順位や価値観に沿って生きてはいけないことを教えています。（ヘブル 11:24-27）

私たちは人生において、神の御心を他の何よりもまず優先しなければなりません。

神の御言葉の素晴らしい宝を見つけたら、この世の欲望を全て捨て去り、心から神を求めて従わなければならないのです。

これができた時にやっと、

「神はいつでも素晴らしいお方」だと心から叫ぶことができるのです。

アーメン